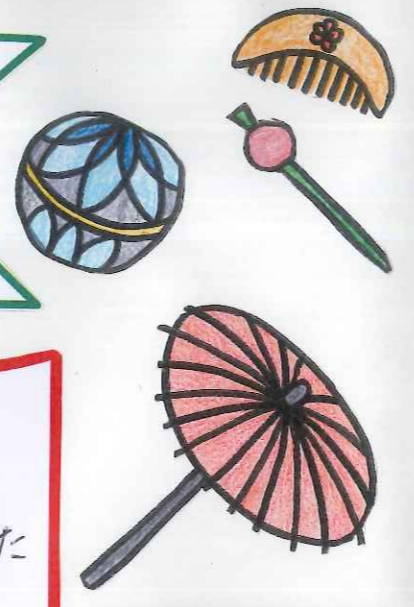


# ハートン通



ごあいさつ  
いつもご宿泊頂いている常連様、また初めましてのお客様!!  
今回は、ハートンホテル京都にご宿泊頂きありがとうございます。  
京都と言えば、伝統的・歴史的な仏閣や寺院が数多く、また  
四季折々の季節が感じられる観光名所や食べ物もたくさん  
あります。  
今までこのハートン通で色々紹介してきたと思いますが、今回は市外から  
お越し頂いたお客様にはなかなか縁のない「舞妓さん」について  
紹介したいと思います。



舞妓さん  
京都の五花街（先斗町・上七軒・  
宮川町・祇園甲部・祇園東）で、  
歌舞音曲の技芸をもって宴席のお客様  
を楽しませる事を職業とする女性。  
(15歳～20歳くらい)

芸妓さん  
舞妓の修業期間(約5年)で、唄や  
踊り、礼儀作法などを学ぶ組合や  
置屋の女将が実力を認められた女性の事。  
実際、実力を認められることは難しい  
ようで舞妓を辞めてしまう事も少なくない。

舞妓の背中を飾る  
「だらり帯」と呼ばれる  
長い帯で長さ18m  
以上もあるそうです!

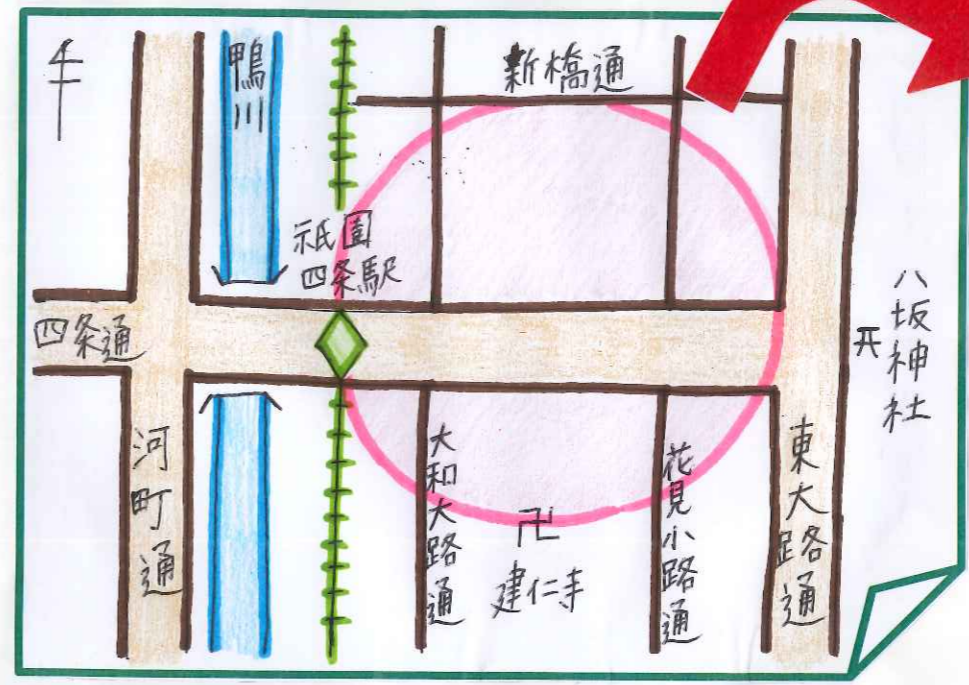


↑  
簪は季節を表す重要な  
役割りをもっています!  
写真の簪は藤ぞり月。

豆知識・髪型  
舞妓の場合、自毛で鬘を結び  
上げますが芸妓の場合は  
カツラを被るそうです。  
カツラを被ることで女性の  
洗練された気品を出し、  
また役柄(空敷での舞)  
によって髪型を変えるので、  
カツラの方が合理的だそう  
です!“かんざし”も季節によって  
変化していきます!!

歴史  
今から約300年前 江戸時代。  
八坂神社のある東山周辺の  
水茶屋で働いていた女性が  
仏閣や寺院へ参拝する人などに  
お茶を振舞い、唄や舞を披露  
するようになったのが舞妓の  
始まりです。  
いつからかお酒なども提供  
するようになり、歌舞伎の真似事  
を披露するようになったそう。  
今でも花街で舞妓が活躍中!!

昼と夜とは違った雰囲気のお祇園! タイムスリップしてみたい!!



祇園  
京都市東山区にある大きな  
繁華街で、京阪電車「祇園  
四条駅」東側一帯の広い  
地域の事。鎌倉時代から  
八坂神社の月前町として  
開けたが、江戸時代以降は  
遊興の街として発展。  
祇園周辺で見かける舞妓は  
観光客の舞妓体験がほとんど。  
本物を見ることは、かなり希少!

空敷遊  
お仕事の一つもある空敷遊。  
最も代表的なものとして「とらとら」が  
あります。現代のじゃんけんと同じルール。  
それぞれが屏風に隠れ三味線や唄  
に合わせて左記の3者に扮して  
シスターシスターから現れ勝負が決まる  
遊ばず。

〈虎〉… 虎のように四つんばいで登場。  
〈老婆〉… 杖をついた姿で登場。和藤内の母。  
〈和藤内〉… 鉄砲を構えて登場。  
虎を鉄砲で退治した、近松月左衛門の  
「国性爺合戦」の主人公。  
いつかどこかでやってみたいものです。  
怖く感じることなく出来たらいいですね。



最後に  
「舞妓さん・芸妓さん」のほんの一部、表面的な事しか、  
お伝えできませんでしたが、少しでも知って頂けたら幸いです。  
なかなか、本物の舞妓さんを目にする機会はなくとも、せめて  
京都にお越し頂いているので祇園の街の雰囲気だけでも  
味わいに行きませんか? 四季折々でいろいろな顔を持つ  
「祇園」が体感できると思います。また、舞妓体験で生きたお宿も  
あるので時期がある方は是非!! 運が良ければ本物に出会える?!